学校だより

磨光

令和６年１０月３日（木）
三豊市立本山小学校
No.１２
発行者：中田　祐二

「みなさんのお名前に守られながら、書道パフォーマンスをしたい。本山小学校のみなさんと私との作品を創りたいんです。」

昨日、書家の小山梨風先生が来校され、本年度２回目の書道パフォーマンスを披露してくださいました。今回は、子どもたちが書いた自分の名前も作品の一部となり、彩りを添えました。

【静かに初筆を待つ ～周囲には子どもたちの名前～】

夢 ― 念ずれば花ひらく

今回、小山先生は、子どもたち１４７名の夢が叶うように、「念ずれば花ひらく」と祈りを込めて書いてくださいました。

「念ずれば花ひらく」は、坂村真民さんの詩です。真民さんが46 歳の時、片方の目を失明しそうになり、絶望の底でこの詩は生まれました。

真民さんは苦しい時に、念仏のようにこの言葉を唱えていたそうです。そして、唱えるたびに「わたしの花がふしぎと／ひとつひとつ／ひらいていった」と詩に表しています。

私たちは、この作品を見ては、この言葉と、言葉に込めてくださった小山先生の祈りを思い出し、苦しい時にこそ、「念ずれば花ひらく」と唱えて乗り越えていきたいと思います。

「念ずれば花ひらく」。前向きに生きるための願いの言葉です。

【一枚の紙に祈りが込められます】

名前の由来

今回の作品を創るに当たり、ご家庭から、子どもたちの名前の由来を教えていただいていました。ご協力、ありがとうございました。

名前を大切にすることは、自分を大切にすることだと考えています。各教室に掲示している書写の作品でも、自分の名前を堂々と描いているのを目にすると、名前を誇りに思う気持ちの表れのような気がして嬉しくなります。

【みんなの作品を囲んで】

書道パフォーマンスでは、学年で一人ずつですが、その由来を発表してもらいました。

「ぼくが生まれたとき、晴れていたから『青空』にちなんで名前を付けてくれた。」

「千の穂のように豊かに実ってほしいと願って名前を付けてくれた。」

「やわらかくってやさしくなってほしいから、名前をひらがなにしてくれた。」

小山先生とご家庭の方々の祈りを受け、子どもたちも加わった作品を玄関壁面に飾っています。明日、参観に来られた折に、ぜひ、ご鑑賞ください。

※書道パフォーマンスは、文化庁の「文化芸術による子供育成推進事業」の一環として実施しています。